

技術ノート KGTN 2013011601

現象

[GGH4.5] GGW3.2.1と比較して、GGH4.5 ほどのような高速化（最適化）が図られたのか？

説明

GG の機能を実現している構成要素には大きく分けて 2 つの種類があり、基本機能として Windows に任せる処理と、独自機能として GG が行う処理があります。ログオンやアプリケーションの実行と言った処理は前者に当たり、この部分に関しては Windows 側で実行されるため高速化（最適化）を図ることは出来ません。通信プロトコルやクライアント機能を始めとするその他の処理は後者に当たり、この部分に関しては GG 固有であるため高速化（最適化）を図ることが出来ます。GGH4.5 では、この GG 固有の処理全般に関して高速化（最適化）が図られました。主な実装内容は以下の通りです。

- 1) クライアントドライブ機能の再実装（アーキテクチャの見直し+低速デバイスの除外など）
- 2) クライアントプリンタ機能の再実装（アーキテクチャの見直し+プリンタ構成の並行処理など）
- 3) プロトコルの最適化（データ送受信の自動最適化）
- 4) グラフィックエンジンの最適化（描画命令のバッチ処理, ウィンドウ描画の最適化）
- 5) アプリケーション起動の高速化（メモリ管理の最適化）

ログオン時にはクライアント側のディスクやプリンタを全てチェックする必要があるため、特に上記 1 および 2 の再実装によりログオン処理（GG 固有の処理部分）のパフォーマンスが大幅に向上しました。

Last reviewed: Jan 16, 2013
Status: DRAFT
Ref: NONE
Copyright © 2013 kitASP Corporation